

# 長野県社保協ニュース <23-1>

2018年2月28日(水) 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

http://www.n-syaho.com E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

## 2/17(土) 長野県社保協第23回総会・講演会開催 9条改憲・社会保障破壊の安倍暴走政治と対決し、 いのち・暮らしを守る地域からの運動を強めよう！ 8月県知事選挙～県民に寄り添う県政実現に向け奮闘しよう



2月17日(土)長野県社保協は、第23回総会及び記念講演会を、長野市の長野県教育会館3階会議室で開催しました。当日は、午前10時から総会、午後1時から記念講演会が開かれました。

午前の総会では、4地区社保協(長野、松本、諏訪、飯伊)・13団体32名が参加し、代表委員の茂原さん(医労連)の開会挨拶(写真左)のあと、原事務局長が活動方針、宮沢事務局次長が決算・予算案の提案・報告、戸沢監事が決算監査報告を行いました。討論では、8名の方から発言があり、自治体キャラバンでの国保

税の引き下げ運動や短期保険証発行への要請の取組をはじめ、各団体の1年間を振り返った活動の特徴や運動の成果、課題などが報告され、本年度の活動への思い・決意も語られました。このなかで、2月に上伊那地区社保協の再建総会が開かれ活動が開始された報告、佐久地区労連の代表から、地域の病院を守る共同の取り組みを通して社会保障を守る社保協への期待が高まっている、社保協の結成に向け頑張りたい、との発言があり、大きな拍手に包まれました(写真右)。

討議のまとめをした原事務局長は、社会保障制度のあらゆる面での本格的な改悪がすすむなか、県下でも国保、介護、地域医療構想など国の悪政が持ち込まれる。新たに加わる地域社保協とともに、8月の県知事選挙では国いいなりの県政から住民に寄り添った県政実現に向け各地域で奮闘しよう、と訴えました。

議案はすべて拍手で承認され、新年度の活動方針、決算・予算、新役員体制(下記参照)が確認されました。総会の終了後昼休みをはさみ、立命館大学教授の唐鎌直義氏を招いての記念講演会が開かれました。(別記参考)



### <総会で選出された2018年度役員名簿> 一年間よろしくお願ひします。

代表委員：熊谷嘉隆(民医連)、宮沢裕夫(保険医協会)、茂原宗一(医労連)、細尾俊彦(県労連)、  
松丸道男(県推協)、北沢忠(年金者組合)

事務局長：原 健(民医連) <専任>

事務局次長：川畑和章(医労連)、宮澤淳司(保険医協会)、竹田憲子(県推協)、佐藤功(民医連)  
村田洋一(諏訪地区)

運営委員：吉田由美子(高教組)、近藤克也(県教組)、服部壽一(県労連)、大久保益栄(県生連)、  
高橋夏美(新婦人)、菅田敏夫(年金者組合)、林憲治(飯伊地区)、小野高聡(長野地区)、  
古畑克己(上伊那地区)、湯浅健夫(松本地区) 長商連は後日選出

会計監査：磯野紀子(建交労)、戸沢一雄(年金者組合) <注\* 下線の方が新任の役員>

2/17(土) 長野県社保協第23回総会 記念講演会

# 社会保障改憲の本質と 日本の目指すべき社会保障

講師：立命館大学産業社会学部教授 唐鎌直義氏

市民、社保協加盟の団体構成員ら71名参加

長野県社保協は、2月17日(土)第23回総会を記念して公開講演会を開催しました。講演会には市民や社保協加盟の団体の構成員など71名が参加しました。

講演は、立命館大学産業社会学部教授の唐鎌直義氏による「社会保障改憲の本質と日本の目指すべき社会保障」でした。講師の唐鎌氏は、地元長野大学での高齢者生活実態調査にも携わり、最近は国民生活の実態を統計データ等で検証し社会保障制度の政策に結びつける研究をしています。

講演では、高齢者世帯の貧困の急増について、2009年と2016年を比較した統計資料を示し、2016年現在は世帯の27%(653万世帯、833万6千人)が貧困状態にあることを紹介しました。その上で、高齢人口が増え、貧困世帯がこのペースで増えていくと2030年には800万世帯を超えるのではないかと指摘しました。唐鎌氏はここまで貧困がすすんだのは、安倍政権のアベノミクスと社会保障の後退で年金水準が低下したこと、福祉サービスや医療給付の削減が貧困化をすすめた原因であると解明しました。更に、消費税は所得が低いほど税負担が重いことを統計で示し、税率の引き上げが低所得世帯と高齢者世帯に大きな弊害であることが浮き彫りになっていると力説しました。

最後に、エマニエル・ドットの著作などを紹介し、「人は地域性のなかに生きている。大部分の人は常に地域のなかで子どもを育て、年を取っていく。グローバル化というのは人間の生活とは合わない」との考えを述べ、日本の社会保障に対し「今大事なことは、自国民が幸せに生活できるよう、社会保障第一に考えるとき」と強調しました。



参加者からは「説得力のあるデータが勉強になった。今後の私たちの役割も明確になった」「高齢者世帯の貧困率の分析がとてもわかりやすく、政権の主張のデタラメさが胸におちた」「今の政治は高齢者いじめの何物でもないと感じた」「何もしないよりした方がいい、運動に負けても種は蒔ける。という言葉が心に残った。これからも運動し続けたい」などの感想が聞かれました。



長野県高齢期運動連絡会 長野県民学習決起集会

3月18日(日)13:30~16:00 ホテル信濃路(長野市)

**「かつてない市民の共同で安倍改憲を阻もう」**

講師：渡辺 治 氏(一橋大学名誉教授)